

薬物事犯の検挙状況

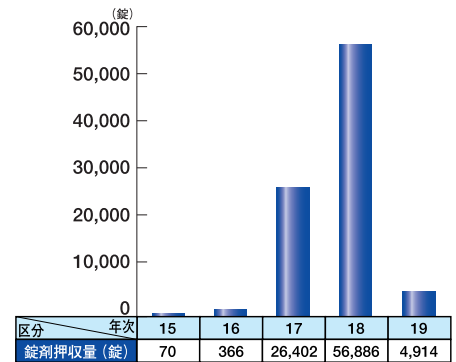
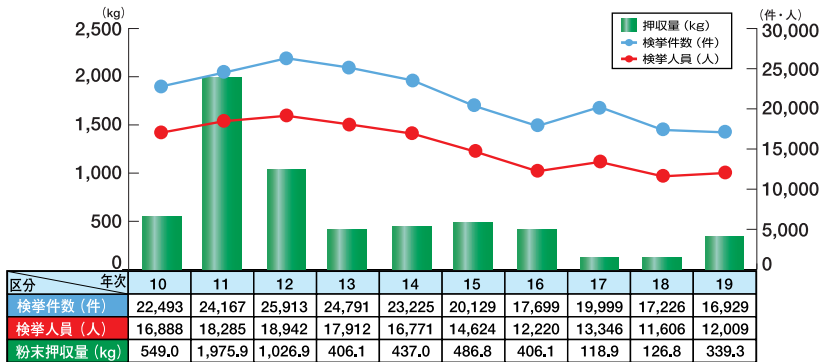


1. 覚せい剤事犯

覚せい剤事犯の検挙人員は、12,009人で前年より増加し、暴力団構成員及び準構成員が過半数を占めている（P 5 参照）ほか、来日外国人による覚せい剤事犯が、464人と増加しました。

覚せい剤の押収量は、覚せい剤粉末が339.3kgと前年より大幅に増加し、また、錠剤型覚せい剤4,914錠を押収しました。

●覚せい剤事犯の検挙状況（平成10年～平成19年）

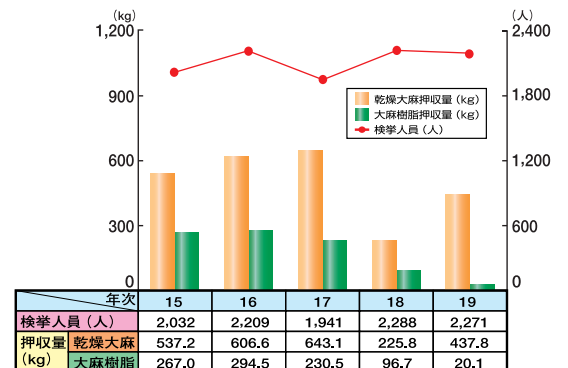


2. 大麻事犯

平成19年中の大麻事犯の検挙人員は、2,271人で、検挙人員の約7割（69.1%）を20歳未満（以下「少年」という。）及び20歳代が占め、若年層を中心に乱用されていることがうかがえるほか、初犯者が86.7%を占めています。

押収量は、乾燥大麻が437.8kgと前年より大幅に増加しましたが、大麻樹脂は、20.1kgと前年より大幅に減少しました。

●大麻事犯検挙状況（平成15年～19年）



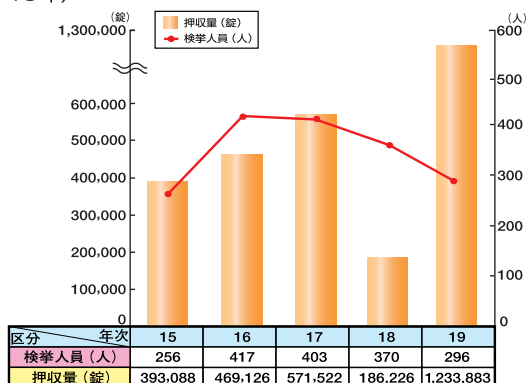
3. MDMA等合成麻薬事犯

平成19年中のMDMA等合成麻薬事犯の検挙人員は、296人と前年より減少しましたが、依然として、6割以上（62.8%）を少年及び20歳代の若年層が占めているほか、初犯者の占める割合も、84.8%と高率です。

押収量は、1,233,883錠と前年より大幅に増加し、過去最多となりました。

●MDMA等合成麻薬事犯の検挙状況（平成15年～19年）

注：押収量には、覚せい剤とMDMA等の混合錠剤を含む。



●事犯別・年齢別検挙状況（平成19年）

区分/年齢別	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上
覚せい剤 (人)	305	2,904	4,537	2,752	1,511
構成比 (%)	2.5	24.2	37.8	22.9	12.6
大麻 (人)	179	1,391	452	179	70
構成比 (%)	7.9	61.3	19.9	7.9	3.1
MDMA等 (人)	24	162	63	30	17
構成比 (%)	8.1	54.7	21.3	10.1	5.7